

## 1 21 「おはなし隊」がやってきた!

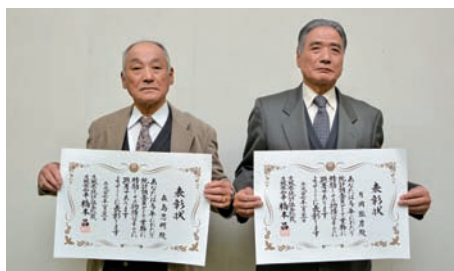
桂小学校に講談社の「全国訪問おはなし隊」が来校しました。この「おはなし隊」は、講談社創業90周年記念の福祉事業として、1999年に始まった読み聞かせの全国キャラバンです。

この日は、1・3・4学年の児童が参加して、キャラバナーの絵本を自由に読み、おはなし隊のみなさんによる読み聞かせを体験しました。



## 1 21 茨城県統計功労者表彰

平成26年度茨城県統計功労者表彰式が茨城県庁で行われ、長年にわたり各種統計調査の発展に尽力された2名の統計調査員が表彰されました。



▲写真左から 森島 忠明さん（那珂西）  
片岡 徹男さん（孫根）

## 2 3 町女性ネットワークがワイヤークラフト講習会を開催

城里町女性ネットワーク主催の研修会が常北公民館で行われ、町内幼・小・中学校に通う子の母親13名が参加しました。

今回の研修会では、那珂市で同組織の委員長を務める永井真美恵さんを講師に迎えて、ワイヤーを使ったアレンジメントの講習が行われました。

永井さんは、三つ子を含む4人の子育てをしながら、ワイヤークラフトアーティストとして活躍中。作品制作に取り組む一方で、同年代の子を持つ母親として子育ての話題にも花が咲きました。

また、講習の後は地元食材を使ったランチを食べながら、意見交換も行われました。研修会を主催した平賀博子委員長は、「親も子も輝ける委員会を目指して、1年間活動してきた。今年度、最後の研修会に輝いているお母さんをお迎えできてよかった。」と感想を述べ、委員会のさらなる発展に期待を膨らませました。



▲完成した作品を持って、みんなで記念撮影

## 2 7 男女共同参画推進をテーマに笠間市と交流研修会を開催

城里町男女共同参画推進協議会と笠間市男女共同参画推進連絡協議会との交流研修会が、ホロルの湯で開催されました。

交流会では、それぞれの単位団体活動についての情報交換と、笠間市で行っている男女共同参画フォーラムについての説明を受けました。

また、続いて行われた研修会では茨城大学社会連携センター専任教員の長谷川幸介先生と、江戸しぐさ・江戸文化研究会主宰者の外岡仁先生が、「男と女の幸せ戦略一人は独りでは生きられない」と題して、地域、職場、親類、友人といったそれぞれの縁が人を支える「支縁社会」の大切さと、その実現に必要な男女双方の意識改革の必要性について講演を行いました。



# SPORTS

## 12 23 第10回かすみがうら市長杯 ミニバス大会

かすみがうら市立千代田中学校体育館

県内8チームが参加して行われた上記大会において、常北ミニバススポーツ少年団が見事優勝しました。



## 2 9 小林守さん(錫高野)が 町に絵画を寄贈

錫高野にお住まいの小林 守さんから町に絵画が寄贈されました。

小林さんは、退職後に趣味で始めたアクリル画の個展を昨年8月に開催。その時展示した作品の中から、湧き上がるエネルギーをイメージして描いた作品『噴出』が町に寄贈されました。

いただいた絵画を、新庁舎の町民ホールに展示しています。役場を訪れた際にはぜひご覧ください。



◀ 絵画の作者  
小林 守さん(写真右)

## 常北中女子ソフトボール部 石島 実来さん 県選抜選手として全国大会出場決定

3月27日(金)から3日間の日程で開催されるJOCジュニアオリンピックカップ第11回都道府県対抗全日本中学生女子ソフトボール大会(会場:福岡県北九州市)に、石島実来さん(常北中2年)の出場が決定しました。

石島さんは、県下36チームの中から県選抜選手に選ばれ、大会に向けて日々練習に励んでいます。

2月9日(月)、大会出場を報告するため、町役場を訪れた石島さんは、上遠野町長との会話で、「他校の選手との交流は学ぶことがとても多い。選手の一人としてチームを支えながら、全国大会では優勝を目標として頑張りたい。」と大会への意気込みを語りました。



▲写真左から、上遠野町長、石島実来さん、常北中ソフトボール部顧問の長澤先生

## 2 17 ななかいの里生産研究部会 4年連続金賞受賞を知事に報告

昨年12月に開催された「第11回お米日本一コンテストinしずおか」で30位以内の金賞に選ばれた小林克成さん(塩子)が、ななかいの里生産研究部会の会員や関係者とともに県庁を訪れ、橋本昌知事に受賞を報告しました。

「ななかいの里生産研究部会」(古滝初男部会長、会員21人)は、減農薬で質を追求した特別栽培米のコシヒカリを生産し、毎年11月から12月に開催されているお米日本一コンテストinしずおかに出品。平成23年から4年連続で入賞を果たしています。

橋本知事との会話の中で、小林さんは、米作りで最も気を使う点について水の管理と回答。また、同部会は、メンバーのほとんどが兼業農家。収穫量は少ないが、徹底した品質管理と販路拡大で、今後もブランド力の向上に力を入れていきたいと意欲を示しました。



▲写真右から4番目が小林克成さん